

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 15

2010.08.25 (聞き手 高橋素子)

高橋 > 先月十二日早朝に起きた思いも寄らぬ土砂災害で愚陀
佛庵が全壊して以来、愚陀佛庵再建に向けて全国の俳
人の期待も大きく、いろいろご心配やご苦勞も多くお
疲れの事とお察し致します。

そんな時心苦しいのですが、またインタビューよろし
くお願い致します。

会長 > ご心配ありがとうございます。
愚陀佛庵は時期はわかりませんが、再建されます。こ
のほど、萬翠莊公式ホームページに「愚陀佛庵物語」
というタイトルのビデオをアップしました。今回の災
害現場や愚陀佛庵の日常の風景をご覧いただけます。

高橋 > それは楽しみですな ぜひ拝見したいと思います。そ
れではいつもの学習始めさせて戴きますな。本日は夏
の部の「植物」の「牡丹」の句からですよ。

☆ 盗まれし牡丹に逢へり明くる年 太祇
☆ 飛ぶ蝶を喰はんとしたる牡丹哉 抱一
☆ 御出入の李白をさがす牡丹哉 召波
☆ 鳥羽畫には入らぬ姿の牡丹哉 鳴雪

二句目面白いですね。

見方に寄れば確かに！（笑い）

四句目の「鳥羽畫」とはパソコンで検索すると、無名
な絵師による錦絵の「鳥羽画繪巻の内屁合戦」等を例
に引いて、江戸時代の日常生活等を軽妙なタッチで描
いた維新前後の諷刺画などと書かれていますよ。御説
明戴けますか？

会長 > ☆盗まれし牡丹に逢へり明くる年 太祇
盗まれた牡丹と思いがけず再会した。
品評会とか花の市とか・・・友人宅とか

☆ 飛ぶ蝶を喰はんとしたる牡丹哉 抱一
これは風にひとゆれした牡丹花でしょう。
あるいは蝶が体ごと花に入って
蜜を吸う風景とか、
牡丹の花の大きさがポイントですね

☆ 御出入の李白をさがす牡丹哉 召波
李白が牡丹の美しさを楊貴妃の美貌に
たとえた「詩」がありますね。
味をしめた牡丹が、もっと詠んで
もらいたいと・・・

☆ 鳥羽畫には入らぬ姿の牡丹哉 鳴雪
牡丹の気品と申しますか卑俗な
「鳥羽畫」には、似合わないという
ことですね。

高橋 > 牡丹は俳句では、「ぼうたん」と詠むのでしたね。
会長の牡丹の句ご披露させて下さいね。

★ 風止んでをりぼうたんゆれてをり 健

会長 > この句は「俳句は瞬間を詠むもの」という説明に使っ
ています。
今は風は止んでいるけれども、今という瞬間の直前ま
で強い風が吹いていたということ。
そのエネルギーは牡丹のゆれとして残っているという
わけですね。

高橋 > 次の季語は「若葉」です。

☆ 此花と札にはありて若葉かな 也有
☆ 若葉して中ぶらりんの曇り哉 一茶

☆ 若葉した榎の狸名はおそで 鼠骨

愛媛県に「八股榎お袖大明神」と言う狸の伝説がある
そうですね。

八股の榎の森に住んでいろいろ善行を為した狸の昔話
だとか・・・

その後八股の榎が切り払われて、お袖狸は行き場を
失ってしまったが、昭和22年頃から再び古巣の堀端
に戻って、「八股榎大明神」として祀られているとい
う事です・・・

師もいろいろお願いされたら良いことあるかも・・・
でも狸に化かされないで下さいよ。（笑い）
お袖狸の話も含めて御説明下さいね。

会長 > ☆此花と札にはありて若葉かな 也有
此花手折るべからず・・・などを書いて
あってもすでに葉桜。
也有は花見をすることが出来なくて
がっかり・・・

☆ 若葉して中ぶらりんの曇り哉 一茶
曇り空は若葉に似合わないこと。
雨が降れば艶やかに晴れば耀く
みどり若葉に曇りは中ぶらりんだと。

☆ 若葉した榎の狸名はおそで 鼠骨
鼠骨は松山生まれで子規の弟子でしたね。
この句はお袖という名の狸の住む祠の
榎の木が若葉しているということですが
わかりにくいですね。

高橋 > 会長も「若葉」の句沢山お詠みですね。
其の内二句ほど御紹介させて下さい。

★ 若葉から青葉へ杜の咽（むせ）るなり 健
★ 若葉なりどれも葉裏に翳を持ち 健

会長 > ★ 若葉から青葉へ杜の咽るなり

ともに夏の季語ですが、杜の若葉が
青葉になる。経過を描いていますが、
そのとき、杜が咽ぶのです。
擬人化の句です。

★ 若葉なりどれも葉裏に翳を持ち

若葉という美しいものも 裏に翳がある。
美人も翳を持つからこそ深みがある。
ということですね。
深読みでなく深詠みなんです

高橋 > そうですか。

会長お得意の深詠みですね。

次の季語は「筍」です。会長も次のように筍の句面白
く詠んでいらっしゃいますね。

★たけのこを掘りにのこのこついでゆく 健

★筍のあたまか靴で踏んだのは 健

★竹の子といへどもすでに毛むくじゃら 健

会長 > ★たけのこを掘りにのこのこついでゆく

のこのこのこのこ 言葉遊びですが
リズムにポイントがあります。
のこのこと来てぎりぎり竹を伐る

★筍のあたまか靴で踏んだのは

食べごろの竹の子は地上に出過ぎないのが
良いですから・・
足裏の感触で探すのです
さきほど踏んだのは筍だったかも知れぬ

★竹の子といへどもすでに毛むくじゃら

写生句です。子どものくせにこいつは
毛むくじゃらそこが可笑しい。

高橋 > それでは、百八年前の筍の滑稽句に参ります。

- ☆ 筍や盗人に縄かけらるゝ 也有
- ☆ 竹の子やあまりてなどか人の庭 大江丸
- ☆ 筍のへんてつもなく伸びにけり 子規
- ☆ 筍と笠と鎌とを書きけり 子規

ご解説くださいね。

会長 > ☆**筍や盗人に縄かけらるゝ** 也有
盗人は「お縄」をかけられる存在ですが、
その盗人が筍に縄をかけている。
そこが可笑しい

☆**竹の子やあまりてなどか人の庭**
筍も豊作。他人の庭まで生えるのかと

☆**筍のへんてつもなく伸びにけり**
まっすぐにのびるから面白みがないという
のです。
少しぐらい曲がるとか枝別れするとか・・・

☆**筍と笠と鎌とを書きけり**
子規は寝たままでしたから竹の子掘り
想定しているのですね。ただし孟宗竹ではな
くて「淡竹(はちく)」という種類。鎌で切り
取る。

高橋 > 次は「若竹」「菖蒲」「柿の花」「夕顔」の季語の句
が一句ずつ挙げられていますよ。

- ☆ 垣根やぶる其若竹を垣根哉 素堂
- ☆ 湯上りの尻へべったり菖蒲哉 一茶
- ☆ 蒔柿のしぶしぶ花になりにけり 一茶
- ☆ 夕顔のしぼむは人の知らぬなり 野水

二句目の菖蒲の句、本当に有りそうで面白いですね。
しかも本人気付かず満足そうにお風呂から上がって来て・・・（笑い）
会長も花菖蒲の句詠まれていますね。

★ 曇りのち雨の待たるる花菖蒲 健

会長 > ☆垣根やぶる其若竹を垣根哉 素堂
垣根を破る筈は悪い奴ですが
その悪い若竹を垣根にしている一枚上手
(うわて)ということです

☆湯上りの尻へべったり菖蒲哉 一茶
菖蒲湯をあがるや尻に菖蒲つけという
風景ですね。

☆蒔柿のしぶしぶ花になりけり 一茶
しぶがきのしぶしぶ 言葉遊びですが
柿の花は目立たない。
積極的に花になるならもっと「はなやか」
だろうと・・・

☆夕顔のしぼむは人の知らぬなり 野水
夕方から咲き始める夕顔は明け方に萎む
だから知らない。これは女人の夕顔を暗に
言っているのですね。お化粧を落すのは
人に見せない。

高橋 > 最後の句は「女人の夕顔」をかけているのですか？流石、会長！お詳しいですね。

夏の植物の句急ぎま～す。
次の季語は「麦」です。種田山頭火や尾崎放哉の様に、会長も「自由律」で

★見渡すかぎり麦秋 健

と詠まれています。
百八年前の句、ご説明下さいね。

- ☆ 麦刈るやあらはれ出る六地藏 柳雨
- ☆ 麦の穂に腹こそばゆき雀哉 子規

会長 > ☆麦刈るやあらはれ出る六地藏 柳雨
麦に埋もれていた六地藏がひょっこり
顔を出す可笑しさ。それは普段は忘れられ
ている不信心を自嘲しているようにも。

☆麦の穂に腹こそばゆき雀哉 子規
麦の穂にのっているスズメの腹のこそばゆい
ことを・・子規もこんなやさしく可笑しい一面が
あるのですね。

高橋 > 次は「罌栗」「一八」ですよ。
「罌栗」（おうぞく）とは「けし」ですね。

- ☆蝶と花ちるかとまるか罌栗花畠 鬼貫
- ☆一八やしやか父にてしやかの花 蕪村

「しやか」はしゃがのことですね？
「一八」（いちはつ）と「しゃが」はとてもよく似た
アヤメ科の常緑多年草の花ですね。
御解説戴けますか？

会長 > ☆蝶と花ちるかとまるか罌栗花畠 鬼貫
罌栗の花は散り易い・・蝶が花を散らさずに
止まることができるか・・
蝶の来てはらはら罌栗の散りたがる
ということですね。

☆一八やしやか父にてしやかの花 蕪村

シャガとイチハツを似ているから父子関係
としたのですね。

高橋 > 本日は少し「夏の植物」急がせていただきますね。次の「木下闇」「柚花」「眞菰」等の季語は一句ずつ挙げられています。

☆ 賣ト先生木下闇の訪はれ顔 蕪村
☆ 長刀にのせてさし出す花柚哉 大江丸
☆ 戻りは棒に風なし眞菰うり 也有

眞菰は全部売れた様ですね。
眞菰はイネ科の大形多年草で果実と若芽は食用になる
みたいですね。

会長 > ☆ 賣ト先生木下闇の訪はれ顔 蕪村
賣ト先生・・・占師のことですね。
訪はれ顔は人待ち顔ですね

☆ 長刀にのせてさし出す花柚哉 大江丸
花柚は 蜜柑の一種ですね。
長刀を風流ごとに使うのは平和の証拠
ですがそこが可笑しいのですね。

☆ 戻りは棒に風なし眞菰うり 也有
天秤棒で担いだ荷も空っぽで風をうけても
平っちゃら・・・ということ。確かに売れて
しまったのですね。
ところで眞菰は美味ですね。
ミンチと炊き合わせたのが好きです。
好物に眞菰ミンチの炊合はせ

高橋 > えっ！眞菰ミンチの炊き合わせ？
そんなに美味？食べてみたいです。

気分を取り直して・・・と、「次の季語は「蓮」で沢山

の句が詠まれていますよ。

- ☆ 成佛もあぶなきものよ蓮の上 其糟
- ☆ 蓮の花足らぬ處へ鷺の首 柳居
- ☆ 極楽は夏の遊びや蓮の中 逸藤
- ☆ 蓮の葉に乗せたるやうな庵哉 一茶

ご解説下さいね。

会長 > ☆成佛もあぶなきものよ蓮の上
仏さま足をすべらせ蓮の池ですから

☆蓮の花足らぬ處へ鷺の首 柳居
鷺の首蓮に見紛ふ池の面・・・と

☆極楽は夏の遊びや蓮の中 逸藤
蓮池で水遊びをしているのですね、
そりは楽しくて極楽でもある。

☆蓮の葉に乗せたるやうな庵哉 一茶
小さいのでしょう。しかし、かたちが蓮の
蕾に似ていて環境もええ。

高橋 > ありがとうございます。
ところで、夏の植物の俳句も会長は沢山お作りです
が、珍しく数ある句集の中に「蓮」の句を見付けるこ
とが出来ないのです。

そこでまたまた厚かましいお願いなのですが、前回同
様、今一度私の拙い蓮の句を、滑稽俳句の達人の会長
の名添削の腕で甦らせて戴けないでしょうか？

私の住む琵琶湖の一隅に蓮の群生保護地があります。
冬の茎がまるで骨の如く突き刺さり、奈落のような
枯蓮田とはまるで様変わりして夏には可憐な蓮の花が
一面に！まるで浄土の様！

蓮の花は早朝「ぼん」と音を立てて開くからと友人に誘われましたが、寝坊助の私にはとても無理・・・

そこで、夕方閉じる花を観察してみる事にしました。

花は一日目には夕方蕾の形にしっかり口を閉じるのに、それが日を経るにしたがって

☆ **夕闇に惚けて閉じぬ蓮の花** 素子
そうしてやがては

☆ **半身を彼の世へ散らし蓮の花** 素子
何か人の世にも似ている蓮の花に身に
つまされていますが・・・
添削お手やわらかに・・・
よろしくお願い致します。

会長 > ☆ **夕闇に惚けて閉じぬ蓮の花** 素子
老いぬれば閉じるを忘れ夕(よ)べの蓮

☆ **半身を彼の世へ散らし蓮の花** 素子
蓮の花散るや彼の世へはらりはら

高橋 > 有難うございます。

「閉じるを忘れ・・・はらりはら」・・・句の意味は同じでも、私の堅実な生活句が会長の妖艶な(?)滑稽人生句に様変わりしてしまいましたね。

凄い! 本当に評判通り流石です。
またまた、師に向かって生意気な!
ごめんなさい! (笑)

ところで、前回の締め括りは、素晴らしい即興の滑稽

句にお腹が振れるほど笑わせて戴きましたが、本日も
今回出て来た季語を用いられて、お袖狸大明神いえい
え滑稽俳句協会の名物会長にまたまた滑稽句をお願い
して、笑いの内にここまでとさせて戴きたいと思いま
す。

会長 > ★ 緋牡丹や片肌を脱ぎ咲かせたる 健

★ 繊維植物食物繊維の筍は 健

★ 緑陰に深入りをして木下闇 健

★ 夕顔を知れども知らず朝の顔 健

(2010年9月号)
